

自分に帰る旅の終着点が、彼のスターティンググリッドだ。



オフコース、彼らは自分たちがいかなる他者でもない彼ら自身であることを知っている、現代日本における極めて稀なアーティストである。アイデンティティの確立なんて言葉がもてはやされ、「私」の分析が流行したりする奇妙な風潮のなかで、オフコースは10年間、淡々と音楽をやってきた。「最良の音楽」を虚視状態と見すえながらごく普通に生活してき



AR550PW

AR550CS

た。オリジナルメンバー、小田和正、鈴木康博の生き方には、誰かのように、とか、何かになろうとか、いう方法論は一切見あたらない。これはすごい。ただもてはない。最初か



鈴木康博(オフコース)

AR550PW-CS

オフコースサウンドのヒーンと張りつめた、心よい緊張感のバックボーンは、鈴木康博(通称ヤスさん)のギターワークによるところが大きい。オンステージやレコーディングで数々のイパニースが彼によって演奏されている。AR550は、ヤスさんのアドバイスをもとにカスタムメイドされたものがベースになっている。ARシリーズのプロダクトポリシーである“純り”を徹底してつぎつめた上、3 Band EQをサーキットし、スタジオワーク、ライブなど、すべてのサウンドフィールドでの要求を完璧にこなすはず。あえてパッシブトーン回路を取り除き、複雑になりがちなシグナル経路での高域ロスやノイズを極限までカットしています。

ら「私たちは私たちです。お気に召したら、なんていう世渡りは危険じゃない冒険行である。82年までのレコードセールス、コンサート動員数など、驚愕的な数字を前に、最もとまどっているのは、実は彼ら2人なのかもしれない。オフコース、イパニース推選、モースト・ヴァリアブル・パースン・イン・ジャパン。